

- メルセデス・ベンツ日本、「S550」等計5車種のカムポジションセンサの配線に不具合があるとしてリコール 13年6月5日～15年11月10日に輸入した計2455台
ヒューズボックスからカムポジションセンサをつなぐ配線が長い為、電気抵抗が大きくなり、エコスタート時にエコスタート用バッテリーから供給される電源電圧に電圧降下が発生することがある。その為、当該センサへの電源供給が不安定となり、カムポジションが正しく認識されず、エコスタートができない恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本「S400ハイブリッド」等計2車種の燃料ポンプコントロールユニットに不具合があるとしてリコール
燃料ポンプを制御するコントロールユニットのプログラムが不適切な為、モータ走行からエンジン走行に切り替わる際、燃料ポンプが作動しないことがある。その為、エンジンが始動せず、走行不能に至る恐れがある。 13年5月20日～15年6月7日に輸入した計51台
- 日産自動車、「ノート」の点火コイルに不具合があるとしてリコール 15年4月7日～12月7日に生産した2万6669台
その他、修理部品としてイグニッションコイルが組付けられた56台と、車両は特定できないが交換修理用部品として出荷された123個が対象。
スーパーチャージャー付きエンジンの点火コイルにおいて、耐久性が不足している為、通電による発熱等の繰り返しにより内部素子が破損することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、点火コイルが点火できず、エンジンが失火して加速不良となり、最悪の場合、走行中エンストして再始動不能となる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「B170」等計9車種のドライブシャフトに不具合があるとしてリコール 04年12月27日～10年5月1日に輸入した計3万7996台
フロントドライブシャフトにおいて、ホイール側ジョイント部のインナーレースの加工が不適切で耐久性不足のものがあることが発覚。そのまま使用を続けると、繰り返しの加速等によりインナーレースの歯が摩滅し、最悪の場合、タイヤに駆動力が伝わらなくなり、走行不能となる恐れがある。
- BMWジャパン、BMW「318i」等計24車種のエアバッグ装置に不具合があるとしてリコール 02年1月2日～06年8月18日に生産した計5万8043台
運転席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、エアバッグ展開時にインフレーター容器が破損して構成部品が飛散し、乗員が負傷する恐れがある。今回のリコールは、国内外で拡大する、タカタ製エアバッグの不具合によるもの。
- 日野自動車、「日野ポンチョ」のスターターリレー乗降口(扉)に不具合があるとしてリコール 06年3月17日～14年2月20日に生産した計1512台
スターターリレーについては、接点の構造が不適切な為、始動時にスタータが噛み合わなかった場合に流れる電流により、当該接点が荒れるものがある。その為、そのまま使用を続けると、当該接点が溶着し、最悪の場合、スタータが焼損する恐れがある。又、乗降口(扉)については、3つの不具合を確認。扉の位置を検知するスイッチの回路が不適切な為、当該スイッチがオンになった際、接点に定格値を超える電流が流れ、接点が荒れるものがある。その為、そのまま使用を続けると、接点どうしが導通したままとなり、最悪の場合、扉が閉められなくなる恐れがある。乗客の挟み込みを検知するスイッチの接点構造が不適切な為、スイッチの作動頻度が少ない場合、当該接点に生成したシリコン被膜により、導通不良になるものがある。その為、スイッチが機能せず、最悪の場合、乗客が扉に挟まれる恐れがある。又、扉開閉用エアシリンダの電磁弁とエア配管の容量が不適切な為、扉の開閉中に反転操作を行った場合、扉が通常より速く動くことがある。
- 日産自動車、「キャラバン」いすゞOEM「モコ」のディーゼルトーボエンジン車の過給機負圧ホース及びエンジン制御コンピュータに不具合があるとしてリコール
過給機の負圧ホースの耐久性が不足している為、エンジンからの被熱により当該ホースに亀裂が発生する恐れがある。また、DPF(ディーゼル粒子状物質除去装置)のPM除去制御プログラムが不適切な為、PMが過度に多量に堆積した場合であってもDPFの再生を行うことがある。その為、そのまま使用を続けると、負圧ホースの亀裂による負圧低下のために発生する異常燃焼によりPMが過度に堆積され、そのDPFの再生時にDPFが過度に高温となって破損し、最悪の場合、アンダーカバーが焼損する恐れがある。 07年8月7日～12年6月5日に生産した2万台
- 日産自動車、「NV350キャラバン」及びいすゞOEM「モコ」のディーゼルエンジン車の発電機(オルタネータ)及びエンジン制御コンピュータに不具合があるとしてリコール 12年6月16日～15年3月11日に生産した3万6096台
オルタネータについては、補機ベルトからの圧力に対してプーリー内のベアリングの耐久性が不足している為、エンジンの回転変動の繰り返しにより当該ベアリングが破損するものがある。その為、そのまま使用を続けると、当該プーリーが脱落して充電警告灯が点灯し、最悪の場合、走行中にエンストし再始動できなくなる恐れがある。エンジン制御コンピュータについては、DPF(ディーゼル粒子状物質除去装置)において、高速走行などに高負荷運転後の再生(捕集した粒子状物質の燃焼除去)時に、排気ガス温度が高い場合がある。その為、高速走行などの高負荷運転後に、排気管出口付近が草などで覆われるような場所に停車してDPFの再生を行なった場合、排気管後方の草などが発火し、車体などを焼損する恐れがある。
- FCAジャパン、ジープ「グランドチェロキー」の燃料ポンプリレーに不具合があるとしてリコール 11年10月22日～13年5月30日に輸入した2855台
エンジンルーム内の燃料ポンプリレーの耐熱性が低い為、エンジンルーム内の熱により、リレー内部で接触不良が発生するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、燃料ポンプが停止し、最悪の場合、走行中にエンジンが停止する恐れがある。

5台

。

1